

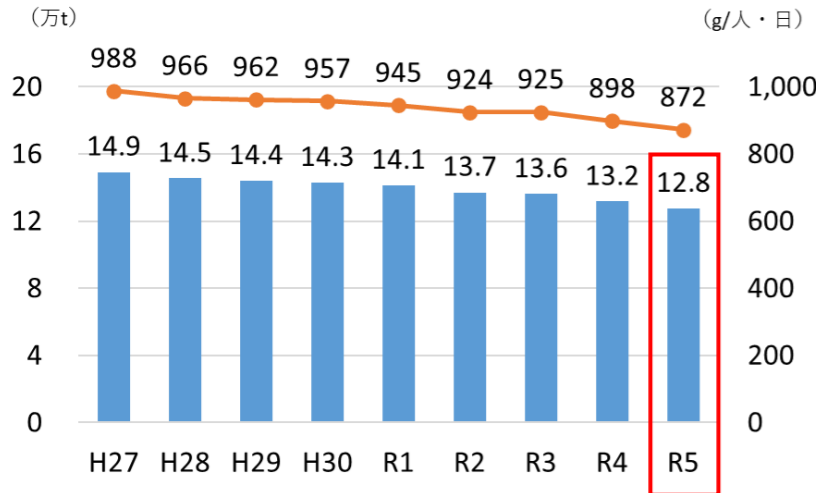
岐阜市のごみ処理の現況と課題

1 岐阜市のごみ処理の現況

(1) 一般廃棄物（ごみ）の総排出量

- ごみの総排出量は、**年々減少傾向**にあり、**R5年度は、12.8万t**
- 一人一日あたり排出量は、**年々減少傾向**にあり、**R5年度は、872g**

※R5年度の数值は、速報値



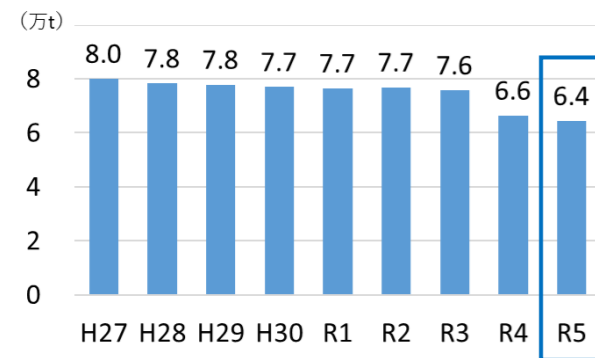
【令和5年度ごみ総排出量の内訳】

家庭系ごみ	8.7万t
・家庭系普通ごみ	6.4万t
・粗大ごみ	0.6万t
・ビン・カン・ペットボトル	0.6万t
・プラスチック包装	0.5万t
・資源回収ごみ等	0.6万t
事業系ごみ	4.0万t
・事業系普通ごみ	3.5万t
・粗大ごみ・紙ごみ等	0.5万t
その他	0.1万t
合計	12.8万t

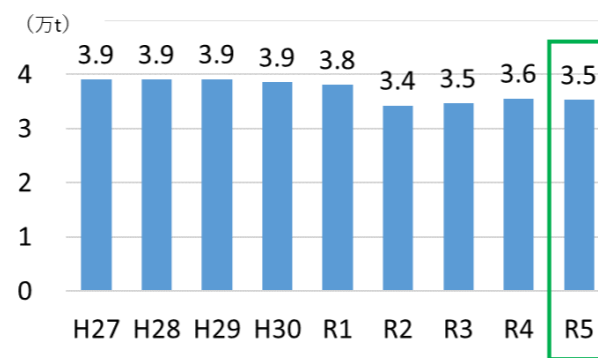
(2) 家庭系普通ごみ、事業系普通ごみの排出量

- 家庭系普通ごみは、R4年度のプラスチック製容器包装の分別収集開始に伴い減少し、**R5年度は、6.4万t**
- 事業系普通ごみは、R2年度に3.4万tまで減少し、その後は、**増加傾向に転じ、R5年度は、3.5万t**

【家庭系普通ごみ排出量】

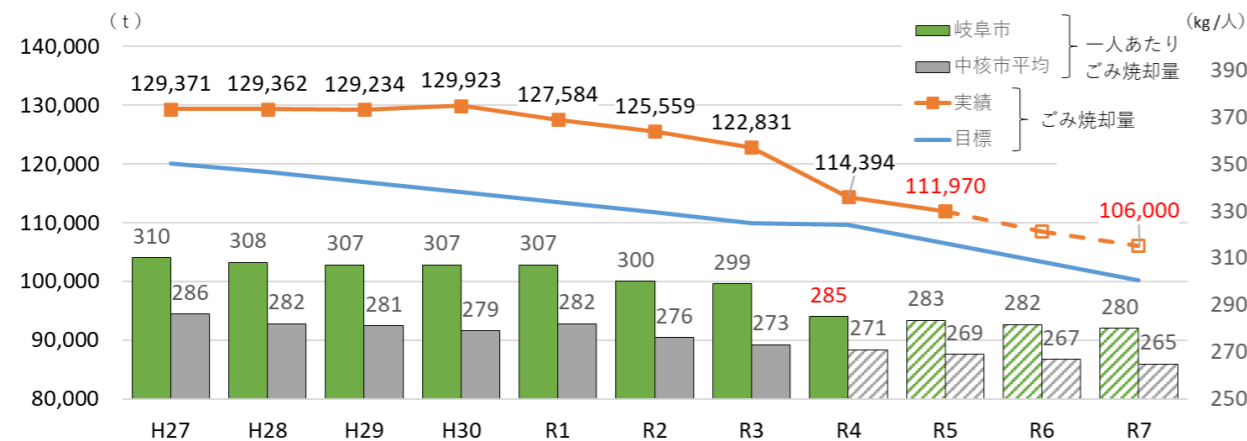


【事業系普通ごみ排出量】



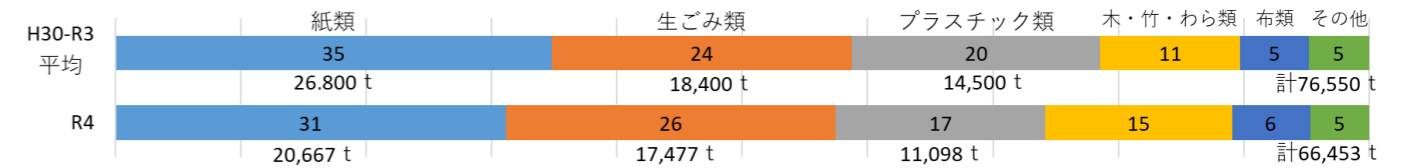
(3) ごみ焼却量の推移

- R7年度末までにごみ焼却量を10万t以下とする目標**（ごみ減量・資源化指針）
- ごみ焼却量は減少傾向にあるが、目標達成には、さらに**6,000tの削減が必要**（R7:10.6万t（見込））
- 一人あたりごみ焼却量は285kg/人で中核市の平均レベル（271kg/人）に至っていない



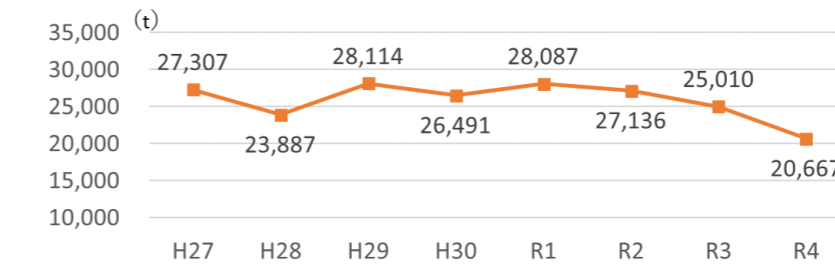
(4) 家庭系普通ごみの組成

- プラスチック製容器包装の分別収集開始に伴い、プラスチック類は減少
- 紙類と生ごみ類**の組成割合が高い



① 紙ごみの減量

- 家庭系普通ごみに含まれる紙類（紙ごみ）の排出量は、R1以降は減少傾向
- 紙類の組成内訳をみると、雑がみが約半分を占めており、紙ごみの減量には、**雑がみの回収量を増やす取り組みが重要**

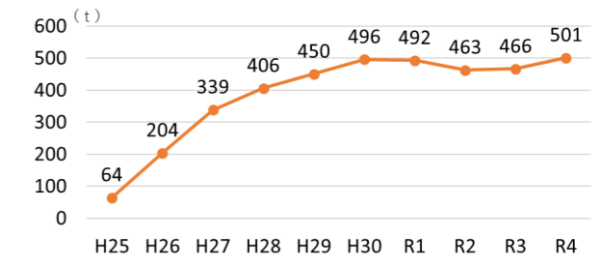


区分	排出量 (t)	割合
普通ごみ	66,453	—
紙類	20,667	31.1%
新聞紙	665	1.0%
広告チラシ	598	0.9%
雑誌	465	0.7%
段ボール	2,658	4.0%
牛乳パック	399	0.6%
雑がみ	9,968	15.0%
紙おむつ	5,981	9.0%

● 出前講座や市イベントでの雑がみ分別の普及啓発

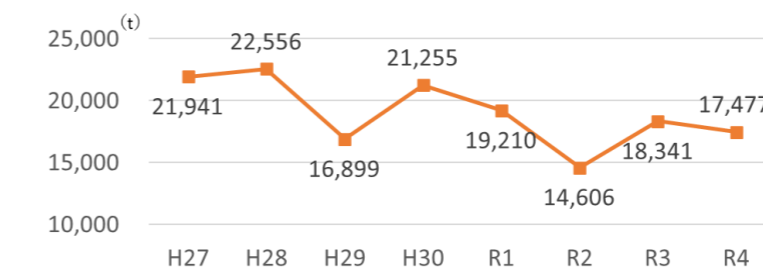
● 古紙回収用ボックス

- 資源分別回収事業を補完するため、**公民館等に古紙回収用ボックスを設置**（50地区中32地区に39基を設置）
- 回収量は、増加傾向



② 生ごみの減量

- 家庭系普通ごみに含まれる生ごみ排出量は、減少傾向にあるが、**さらなる削減が必要**



● 電気式生ごみ処理機購入補助

- 購入補助（R4：64件→R5：170件）

● ダンボールコンポスト講座

- 専門講師による講座を開催
- ダンボールコンポスト消耗品の購入補助（H29：588基→R4：1,040基）

【参考】ごみ減量・資源化指針（R4改定）施策体系

■ 指針の3つの基本方針と6つの基本施策

- 基本方針1**：ごみの発生を抑制する仕組みをつくる
 - 基本施策1 毎日の生活の中でごみ減量意識を習慣化する
 - 基本施策2 ごみ排出量に応じた負担を公平にする
- 基本方針2**：ごみの中の資源を循環し、再利用する
 - 基本施策3 再利用できる資源をごみの中から抜き出す
 - 基本施策4 温暖化対策に向け、ごみの減量の取り組みを進める
- 基本方針3**：地域の絆の中で、ごみ減量を進める
 - 基本施策5 生活様式にあわせた資源分別の機会をつくる
 - 基本施策6 ごみ減量の情報を共有できる仕組みをつくる

■ 具体的な取り組みを示す「6つの作戦」

ごみ1/3減量大作戦市民運動を展開

- 作戦1** 多様な資源ごみ回収を促進する
- 作戦2** 紙ごみを減らす
- 作戦3** 生ごみを減らす
- 作戦4** プラスチックごみを減らす
- 作戦5** 事業系ごみを減らす
- 作戦6** ごみ処理有料化制度の導入を検討する

(5) ごみ処理に要する経費

- ごみ処理に要する経費は、**年々増加している**。

(単位：千円)

種別	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
収集					
普通ごみ	1,841,667	1,757,417	1,778,669	1,479,792	1,393,964
ビン・カン・ペットボトル	148,753	257,255	255,788	309,228	324,677
プラスチック製容器包装	—	—	—	523,980	554,431
運搬					
粗大ごみ	525,879	577,282	600,280	616,645	618,667
都市美化ごみ	10,283	6,525	6,631	7,484	7,722
小計	2,526,582	2,598,479	2,641,368	2,937,130	2,899,461
中間処理					
破碎	230,281	256,697	153,065	163,850	229,687
焼却	1,509,817	1,430,415	1,503,538	1,441,622	1,677,234
リサイクルセンター	207,545	206,026	227,173	358,848	356,063
小計	1,947,643	1,893,138	1,883,776	1,964,320	2,262,984
最終処分(埋立)	92,511	106,385	117,041	144,667	122,745
合計	4,566,736	4,598,002	4,642,185	5,046,117	5,285,191

※R5年度から、廃棄物発電事業特別会計を一般会計に統合した。

●ごみの収集運搬に要する経費(収集運搬業務委託料)

- 人件費や燃料費、車両経費の高騰に伴い、収集運搬業務委託料が特に増加している。

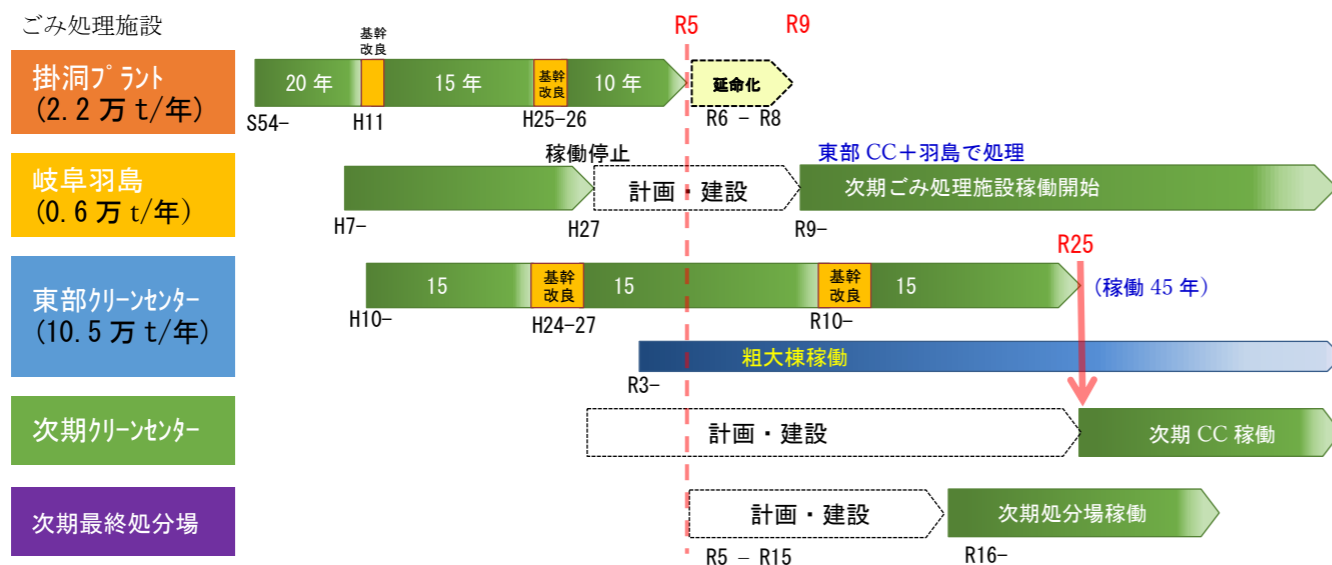
(単位：千円)

種別	収集	R4年度	R5年度	R6年度(予算)
普通ごみ	週2回	676,576	682,389	764,538
ビン・カン・ペットボトル	週1回	247,500	264,880	284,430
プラスチック製容器包装	週1回	277,230	320,229	353,102
粗大ごみ	戸別	295,759	301,919	337,989
計		1,497,065	1,569,417	1,740,059

※R6年度の普通ごみ、プラスチック製容器包装の予算額は、収集委託拡大分を除く。

(6) ごみ処理施設の整備

- ごみ焼却量の減少等を踏まえ、将来負担も勘案しながら、**ごみ処理施設の整備**を推進
- ごみ処理施設の**建設トン単価が高騰**(H14:2,000万円/t → R4:1億円/t [出展:(一財)日本環境衛生センター])



●大杉一般廃棄物最終処分場(三輪北)

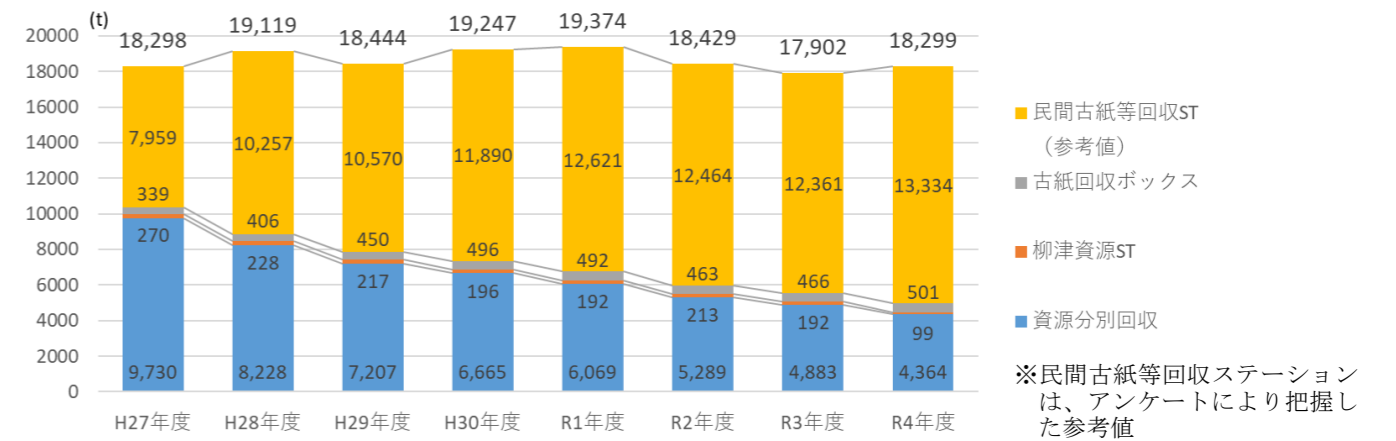
- H23開設時は、**R8末で埋立完了予定**
- ごみ減量の取り組みにより **R4末:埋立率約47%、R16頃:埋立が完了(見込み)**



2 地域のごみ処理の課題

(1) 資源分別回収等の状況

- 資源分別回収量と民間事業者の古紙等回収ステーションの回収量等を含めた資源ごみ回収量は、ほぼ横ばい
- 民間事業者の回収量が増加しており、**資源分別回収量は減少傾向**
- 資源物売却金や、市から自治会連合へ交付する奨励金(雑がみ8円/kg、その他6円/kg)が減少(奨励金総額 H27:約6,200万円→R4:約3,000万円)



●地区ごとの資源分別回収量

- 地区ごとの一世帯あたり回収量は、5.9kg~63.0kg(平均21kg)
- 地区ごとの**回収量に大きな開き**(最大10.7倍)がある

(2) 地域のごみステーションの管理運営

- 本市のごみステーション数は、**約2万7千箇所**
- ごみステーションの**新設要望が増加し、自治会のステーション管理の負担が増している**
- カラス除けネットの設置など、自治会の金銭的負担が増している

(単位：箇所)

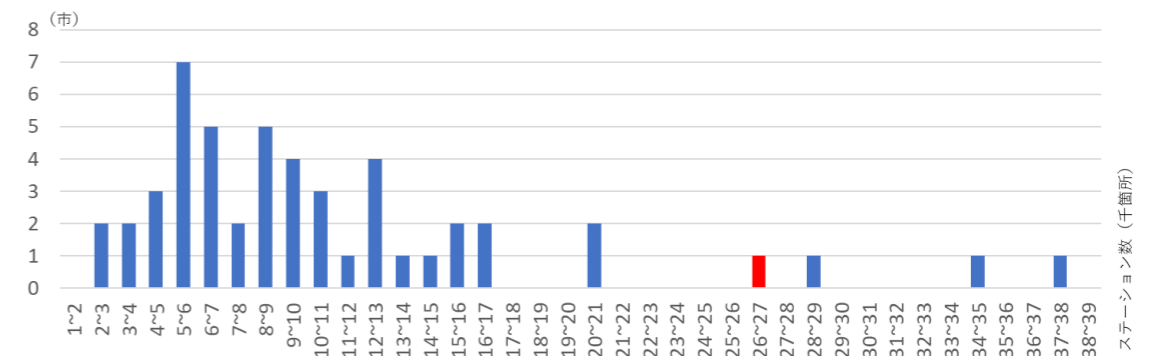
	R元.4	R2.4	R3.4	R4.4	R5.4	R6.4
設置数	24,281	24,402	24,572	25,532	26,279	26,672
増加数	-	+121	+170	+960	+747	+393

【増加要因】

- 世帯数の増加
(R元:18万世帯→R6:18.7万世帯)
- 既存のステーションの細分化の要望
- 自治会未加入者や脱退者の設置要望

●他中核市との比較

- 他の中核市は、5,000~10,000箇所が約4割
- 20,000箇所を超えているのは5市(船橋市、和歌山市、松山市、宮崎市、吹田市) + 本市のみ



●高齢者等のごみ出し

- ごみをステーションへ自ら持ち出すことが困難な高齢者や障がい者等への支援
- ※全中核市62市のうち41市(66%)で、戸別収集する「**ふれあい収集**」を実施